

幼児のおつとめ

■ 楽曲データ

楽曲：中田喜直 作曲

制定：浄土真宗本願寺派保育連盟 1982年

初演：—

初出：—

管理番号：M0047

■ 創作の経緯

幼児用に創作・制定された音楽礼拝。1975（昭和50）年頃から検討がはじまり、作曲家・中田喜直（1923～2000）に作曲が委嘱され、1978年に完成したとみられる。なお、「幼児のおつとめ」に回向等を追加し、音楽法要としての次第を整えたものが、『音楽法要おしょうしんげ』である。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

「幼児のおつとめ」は、音楽を通して豊かな宗教的情操を育むことを目的に、保育連盟が制定した音楽礼拝です。音楽的には、〈入場〉〈開扉〉〈献灯・献華・献供〉〈おつとめ〉〈回向〉〈閉扉〉〈退場〉の7曲で構成されています。

実際におつとめする際は、〈入場〉と〈開扉〉の間に仏教讃歌を挿入したり、〈おつとめ〉の前に「奉讃文」を全員で唱えたりします。保育連盟のテキスト『真宗の教えとまことの保育』（本願寺出版社、2014年）に、基本となる次第と詳しい解説が掲載されていますので、ご参照ください。

◆ 作曲家について

中田喜直さん（1923～2000）は、昭和を代表する作曲家のひとりです。日本語の持つ抑揚やリズムの繊細な扱いにすぐれ、彼の作品を耳にしたことがない人はいないであろうほど、数多くの作品を生み出しました。仏教音楽の分野では、「幼児のおつとめ」の他、《ありがとう》《ふれあるき》などの仏教讃歌が今日でも愛唱されています。